

公営住宅のバルコニーにおける花台の利用に関する研究 — 大阪市営住宅を事例として —

A Study on the Usage of Flower Setting Place on Balcony of Public Housing
- A Case of Osaka Municipal Housing -

○何 景美^{*1}, 亀谷 義浩^{*2}, 松浦 健治郎^{*3}

HE Jingmei, KAMETANI Yoshihiro, MATSUURA Kenjiro

Abstract there are various greening methods to improve the urban environment. Among them, there is a space dedicated to voluntary greening called flower setting place on the balcony of the housing complex. We know that flower setting place is installed on the balcony of the Osaka Municipal Housing. Moreover, the use of flower setting place is also varied. Although the flower setting place can improve the indoor and outdoor environment, there is also the risk of the flowerpot falling. Therefore, the purpose of this research is to clarify the current state and method of using the flower setting place by questionnaire, targeting Osaka Municipal Housing.

キーワード：花台, バルコニー, 自主緑化, 公営住宅, 大阪市営住宅

Keywords: Flower Setting Place, Balcony, Voluntary Greening, Public Housing, Osaka Municipal Housing

1. はじめに

(1) 背景と目的

温室効果ガスにより地球温暖化や気候変動が生じるなど、地球環境や都市環境が悪化している。緑は地球環境や都市環境を改善するための大切な要素のひとつである。一方で、都市内には緑が少ないという現状がある。今後は、公園や河川敷等の公共空間の緑だけではなく、個々の住宅を含む民有地の緑化が必要だと考える。住宅の緑化の方法については、庭の緑化の他、屋上緑化や壁面緑化がある。集合住宅ではバルコニーで植物栽培が可能で



写真1 花台の外観(左)とバルコニーの内側(右)

あるが、集合住宅の一部では緑化を推進するため、バルコニーに花台(写真1)が設けられている。

花台とは、住戸のバルコニーの手摺壁の一部に設けられた植木鉢やプランターを置くためのスペースである。花台での植物栽培はCO₂の吸収だけではなく、日射の遮蔽効果があり、夏季の冷房負荷を低減でき、室内環境の省エネルギー化が実現できる。また、花台やバルコニーでの植物栽培は、住民の健康や生きがいの場になりえる。住戸の雰囲気づくりにも有効であり、豊かな居住空間ができるとともに、近隣コミュニティ形成の媒介にもなり得る。さらに、外部から見た良好な景観形成にも役立つ。一方で、花台で植物を栽培すると、様々な問題も生じる。例えば、バルコニー空間が狭くなったり、バルコニーが汚れやすくなったり、害虫が発生したり、植木鉢が落下するといった危険性も考えられる。

花台には直方体、三角錐状、段状など様々な形状が見られる。本研究では、大阪市営住宅の花台がある住戸を

*1 千葉大学大学院融合理工学府科 大学院生・工修

*2 関西大学環境都市工学部建築学科 教授・工博

*3 千葉大学大学院工学研究院 准教授・工博

Graduate Student, Graduate School of Science and Engineering, Chiba Univ., M. Eng.

Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Environment of Engineering, Kansai Univ., Dr. Eng.

Assoc. Prof., Graduate School of Engineering, Chiba Univ., Dr. Eng.

対象として、花台利用の現状や利用方法、利用する理由等をアンケート調査によって明らかにすることで、公営住宅緑化のための花台の有効性を検証することを目的とする。

(2) 研究対象地の概要

大阪市営住宅は大阪市全域に分布し、2021年現在、482団地111,891戸ある。市営住宅のバルコニーの一部には花台が存在する。花台は1984年から2009年ごろに竣工した市営住宅のバルコニーに設置されている。花台がある団地数は152団地28,753戸(全体の26%)である。

大阪市の市営住宅についてのホームページ等を参照すると、大阪市の24区のうち、22区に市営住宅がある。その22区の市営住宅の団地数、棟数、住戸数、建設年度及び花台がある棟数、花台があるバルコニーの向きとその前面にある道路の有無について調査した結果、研究対象住戸は花台があるバルコニーが南向きで前面に道路がある61団地4,413住戸とした。研究対象の住戸の詳細を表1に示す。南向きで前面に道路があることから、日当たりが良く、植物栽培に適していると考えられる。さらに、前面道路からの景観を分析することが可能である(表1参照)。

(3) 研究の方法

対象とする61団地4,413戸に対してアンケート調査を実施した。アンケート調査の概要は、1)調査名:花台の利用に関するアンケート調査、2)調査時期:2021年7月~8月、3)調査対象:花台がある市営住宅61団地4,413戸、4)調査の方法:ポスト投函、郵送回収、5)配布数:4,080(333戸は空き家)、6)回収数:372(有効数は353)、7)回収率:9.12%、有効回答率:8.65%である。

アンケート調査(表2)のデータ分析より、住民の基本情報、花台・バルコニーの利用状況および花台空間に関する意見を抽出する。次に、アンケート結果から花台を利用する理由を分析する。

(4) 既往研究との関連

集合住宅のバルコニー、玄関および公共空間における自主緑化の誘発および環境共生の意識に関する既往研究については以下の既往研究がある。生川ら¹⁾は高層階の住戸及び玄関が西向き以外では緑化行動を誘発しやすいことを指摘している。また、生川ら^{2), 3)}は自主緑化を誘発するには、住戸近傍部分に空間的な余裕を確保すること、住戸近傍部分に居室が面するように計画することが重要であり、バルコニーの面積および幅とバルコニー内の自主緑化に利用されていない面積との間に、正の相関

があることを示唆した。佐野ら⁴⁾はアンケート調査により、緑化の手法が住民の利便性を犠牲にして用いられて

表1 調査対象とする花台を有する大阪市営住宅一覧^{注1)}

行政区(16区)	団地名(61団地)	号館	階数	建設年度(西暦)	各団地の棟の住戸数	空き家数	投函数	回収数(%)	有効数(%)	
北区	長柄中	1	11	1997	126	5	121	12(9.92%)	11(9.09%)	
都島区	毛馬南	1	6	1993	29	0	29	4(13.79%)	4(13.79%)	
此花区	西島東	2	14	2000	69	7	62	1(1.61%)	1(1.61%)	
大正区	鶴町第8	1	7	1984	111	5	106	9(8.49%)	8(7.55%)	
浪速区	新浪速第1	1	9	2000	84	18	66	3(4.55%)	3(4.55%)	
	浪速第10	1	7	1992	30	0	30	0(0.00%)	0(0.00%)	
	浪速東第2	1	9	1992	54	5	49	3(6.12%)	3(6.12%)	
	西米	1	8	1995	80	5	75	8(10.67%)	8(10.67%)	
淀川区	加島	12	3	2000	8	0	8	1(12.50%)	1(12.50%)	
	加島南第2	3	9	1992	134	11	123	7(5.69%)	7(5.69%)	
東淀川区	井高野	7	7	1991	64	9	55	6(10.91%)	6(10.91%)	
	井高野第6	2	8	1987	80	12	68	5(7.35%)	5(7.35%)	
	南江口	1	11	1981	66	5	61	5(8.20%)	4(6.56%)	
生野区	巽北	1	7	1997	24	2	22	0(0.00%)	0(0.00%)	
城東区	古市東	1	11	1994	82	7	75	5(6.67%)	5(6.67%)	
鶴見区	今津中	1	8	1983	127	6	121	4(3.31%)	4(3.31%)	
	鶴見北	1	8	1982	72	21	51	6(11.76%)	5(9.80%)	
	茨田大宮	17	6	1998	47	18	29	14(48.28%)	13(44.83%)	
	茨田大宮第2	22	12	1996	131	5	126	13(10.32%)	13(10.32%)	
	茨田大宮西	1	8	1987	104	4	100	3(3.00%)	3(3.00%)	
	茨田南	4	9	1984	107	7	100	9(9.00%)	9(9.00%)	
	鶴口	6	7	1988	69	8	61	7(11.48%)	7(11.48%)	
	鶴口北	4	8	1984	103	7	96	7(7.29%)	6(6.25%)	
	北島第1	2	3	1995	18	1	17	3(17.65%)	3(17.65%)	
阿倍野区	北島第2	2	3	1995	12	0	12	5(41.67%)	3(25.00%)	
	中加賀屋	12	12	1983	131	0	131	10(7.63%)	10(7.63%)	
住吉区	浅香中	1	6	1995	48	7	41	3(7.32%)	3(7.32%)	
	我孫子第2	4	7	1996	71	4	67	1(1.49%)	1(1.49%)	
	我孫子東第7	2	8	1987	89	2	87	7(6.05%)	6(6.90%)	
	我孫子南	6	8	1991	56	0	56	9(16.07%)	9(16.07%)	
	上住吉	2	3	1977	39	0	39	1(2.56%)	1(2.56%)	
	遠里小野	5	10	1988	178	5	173	7(4.05%)	7(4.05%)	
	千鉢	1	6	1992	77	1	76	4(5.26%)	4(5.26%)	
	鶴ヶ丘	1	5	1979	50	0	50	7(14.00%)	7(14.00%)	
	長尾第2	2	5	1979	50	4	46	5(10.87%)	5(10.87%)	
	東長尾	1	7	1988	83	6	77	6(7.79%)	6(7.79%)	
	東長尾第2	1	3	1994	23	7	16	11(68.75%)	11(68.75%)	
	南住吉第1	5	6	2000	95	4	91	8(8.79%)	8(8.79%)	
	南住吉第4	1	11	1991	44	9	35	11(31.43%)	10(28.57%)	
	南住吉第5	3	14	1992	66	15	51	18(35.29%)	17(33.33%)	
	南住吉第6	1	6	1999	24	4	20	5(25.00%)	5(25.00%)	
	南住吉第9	4	7	1984	83	3	80	5(6.25%)	5(6.25%)	
	山之内	3	7	1986	61	2	59	4(6.78%)	4(6.78%)	
	東住吉区	公園南矢田	2	9	1990	33	6	27	8(29.63%)	7(25.93%)
		長尾東	2	8	2003	111	3	108	2(1.85%)	2(1.85%)
矢田		7	4	2003	15	6	9	5(55.56%)	5(55.56%)	
加美北第2		3	10	1993	119	5	114	13(11.40%)	13(11.40%)	
加美正堂寺東		3	14	1995	141	10	131	11(8.40%)	11(8.40%)	
平野区	加美東第1	6	13	1996	88	2	86	7(8.14%)	6(6.98%)	
	加美東第2	1	7	2000	48	3	45	1(2.22%)	1(2.22%)	
	喜連第3	1	5	1982	30	1	29	5(17.24%)	5(17.24%)	
	長吉第2	2	11	1983	88	7	81	4(4.94%)	4(4.94%)	
	西喜連第3	2	15	1993	131	6	125	13(10.40%)	11(8.80%)	
	東喜連第4	2	14	1989	167	7	160	2(1.25%)	2(1.25%)	
	平野東	3	10	1988	70	16	54	14(25.93%)	12(22.22%)	
西成区	北津守	1	4	1996	20	2	18	1(5.56%)	1(5.56%)	
	津守第3	1	5	1990	40	0	40	1(2.50%)	1(2.50%)	
	出城第1	1	4	1996	32	5	27	3(11.11%)	3(11.11%)	
	出城西	2	9	1998	62	7	55	6(10.91%)	5(9.09%)	
	長機第5	2	9	1993	89	1	88	5(5.68%)	5(5.68%)	
	ひらき	4	6	1995	30	5	25	9(36.00%)	8(32.00%)	
合計					4413	333	4080	372(9.12%)	353(8.65%)	

表2 アンケート調査の内容等

分類	内容	質問番号	質問数
基本情報	年齢、性別、職業	Q1	記入+選択
	居住年数、住人数、階数	Q2、Q3	記入
認識	花台の認識	Q4	選択(1問)
利用状況	植物栽培の有無とその理由	Q5、Q5A、D、E	選択(4問)
	花台での植物栽培の有無とその理由	Q5B、Q5B-1、B-6、B-7	選択(4問)
	花台での植物の種類と栽培方法	Q5B-2~B-5	選択(4問)
	バルコニーでの植物栽培の有無とその理由	Q5C、Q5C-1、C-6、C-7	選択(4問)
	バルコニーでの植物の種類と栽培方法	Q5C-2~C-5	選択(4問)
	植物栽培以外の利用とその理由	Q6、Q6F、G、H	選択(4問)
その他	現状の栽培空間について	Q7、Q8	選択(2問)
	花台についての意見	Q9	自由記述

いる場合、住民は低い評価を下す傾向があることを明らかにしている。佐野ら⁵⁾・岸川ら⁶⁾・Sackoら⁷⁾は建築物の緑化は生態系の充実やアメニティを向上できるが、害虫や落葉の問題があり、住宅を緑化するには、計画段階からなんらかの措置を考慮しておくことや居住者の意識改革が必要であることを指摘している。上田ら⁸⁾は主要道路沿いの棟はバルコニー緑化の積極性が上がる傾向があり、下層階では緑化に対する積極性が高くなり、その理由はベランダを隠そうとしたり、美しく見せようとする意識があることを指摘した。中谷ら⁹⁾はバルコニーが南、東向きおよび手摺壁の場合、また、手摺壁が日射透過壁の場合は自主緑化を誘発しやすいことを明らかにしている。大浦ら¹⁰⁾はバルコニーの面積を広げること、低層の集合住宅にすること、専用庭を設けることでバルコニーの緑化を誘発しやすくなることを明らかにしている。

以上のような既往研究はあるが、花台に着目した既往研究は見られず^{注2)}、本研究の新規性はそこにあると考える。研究対象の選定方法およびアンケート内容については既往研究を参考にした。

(5) 研究の仮説

第一に「花台により、バルコニーの緑化率が高くなる傾向にある」という仮説である。花台があることによって、自主緑化の意欲が上がると考えた。

第二に「花台による緑化の目的のひとつは都市緑化のためである」という仮説である。既往研究により、バルコニーの緑化理由のひとつとして通行人に緑が美しく見せようとする意識があることが挙げられる。バルコニーの手摺壁に設けられた花台により、外部から緑が見えやすくなると考えられることから、このような仮説が成り立つと考えた。

第三に「低層階の住戸の花台の緑化率は高い」という仮説である。既往研究により、外からベランダを隠すように道路沿いと低層部のバルコニーの緑化率及び緑化意欲が高いことが明らかとなっている。バルコニーに設けられた花台も同様だと考えた。

第四に「花台空間は緑化以外の事柄に利用されている可能性がある」という仮説である。花台はバルコニーの床面より高い位置に設置されているため、収納スペースや展示スペースとして活用される可能性があると考えた。

以上4つの仮説について、アンケート結果をもとに説明する。

2. 調査結果

まず回答者の属性についてみると、中高年層（50代～

70代、68%）、女性（68%）、会社員/主婦/無職（69%）、中低層（2～5階、48%）が多い。

次に、花台の認識については、花台は緑化のための装置だと知っている回答者は89%で、知らない回答者は10%である。

(1) 植物の栽培状況

植物の栽培状況について、バルコニー（花台を含む）で植物を栽培している回答者は58%であり、約6割の回答者は植物を栽培している（図1）。その理由として、「植物が好き」「花が好き」「やすらぐ」「鑑賞するため」の回答が50%以上ある一方で、「他の住戸と違いを出すため」「外からの景観のため」「地球環境のため」「都市環境のため」の回答は5%以下である（図2）。

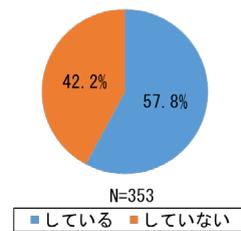


図1 バルコニーでの植物栽培の有無

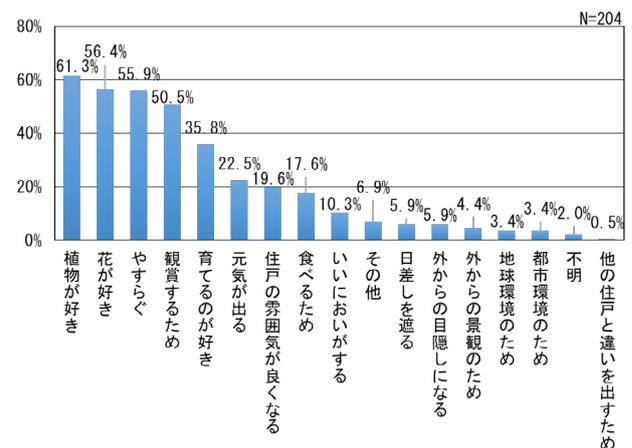


図2 バルコニーで植物を栽培する理由（複数回答可）

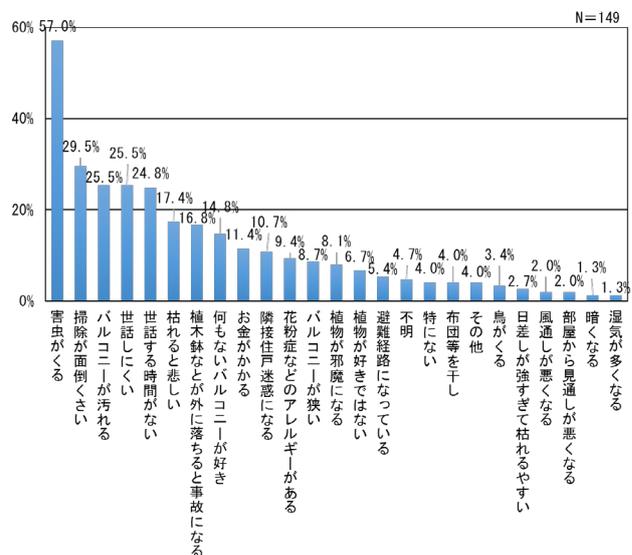


図3 バルコニーで植物を栽培しない理由（複数回答可）

この結果から、植物を栽培する理由はほぼ自分自身のためであり、都市環境や地球環境への考慮はほぼない。植物を栽培していない人に対してその理由を尋ねた結果、既往研究と同じように、「害虫がくる」(57%)という回答が最も多い(図3)。虫の問題が解決すれば、植物を栽培する住戸数が増加すると考える。栽培する植物の種類を組み合わせることによって害虫を軽減できる可能性がある。「バルコニーが汚れる」「掃除が面倒くさい」「世話しにくい」「世話する時間がない」という回答は20%以上みられた。また、「隣接住戸の迷惑になる」も10%程度みられることから、隣接住戸に土が流れていたり、落ち葉が飛んでいたり、枝・葉が伸びていくことなどを懸念していると思われる。

(2) 植物の栽培場所

植物の栽培場所については、1) 花台とバルコニーの両方で植物を栽培している住戸(以下、両方で栽培)、2) 花台だけで植物を栽培している住戸(以下、花台で栽培)、3) バルコニーだけで植物を栽培している住戸(以下、バルコニーで栽培)、4) 花台とバルコニーの両方とも植物を栽培していない住戸(以下、栽培していない)の四種類に分けられる(図4)。両方で栽培している人と両

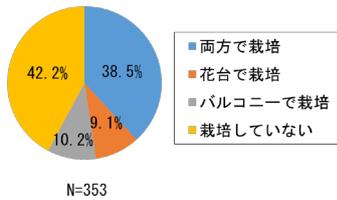


図4 植物の栽培場所

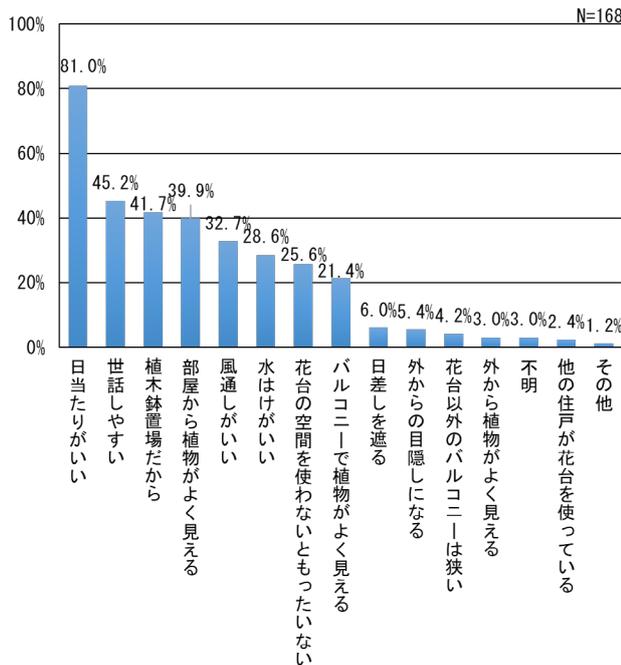


図5 花台で植物を栽培する理由(複数回答可)

方で栽培していない人の割合はほぼ等しく、40%程度である。花台だけで栽培、バルコニーだけで栽培の割合はほぼ等しくとる、10%程度である。全体で見ると、花台で植物を栽培しているのは48%(両方で栽培39%+花台だけで栽培9%)である。

(3) 花台の利用状況とその理由

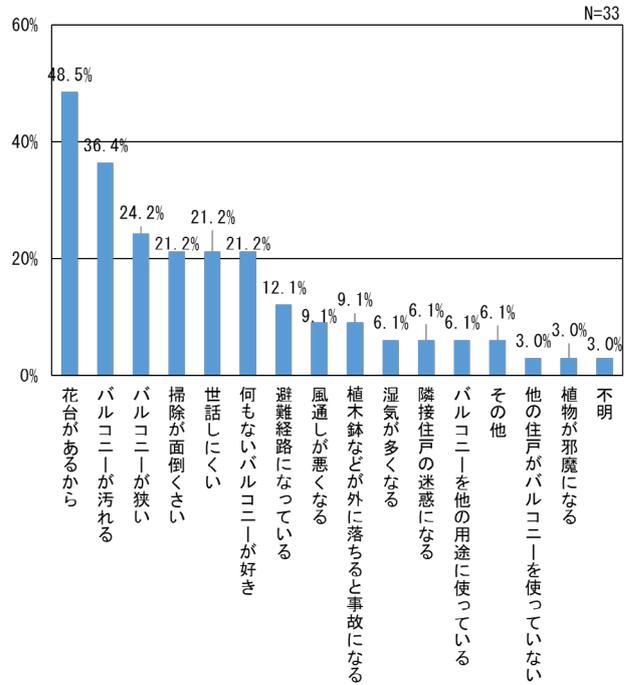


図6 花台だけで植物を栽培する理由(複数回答可)

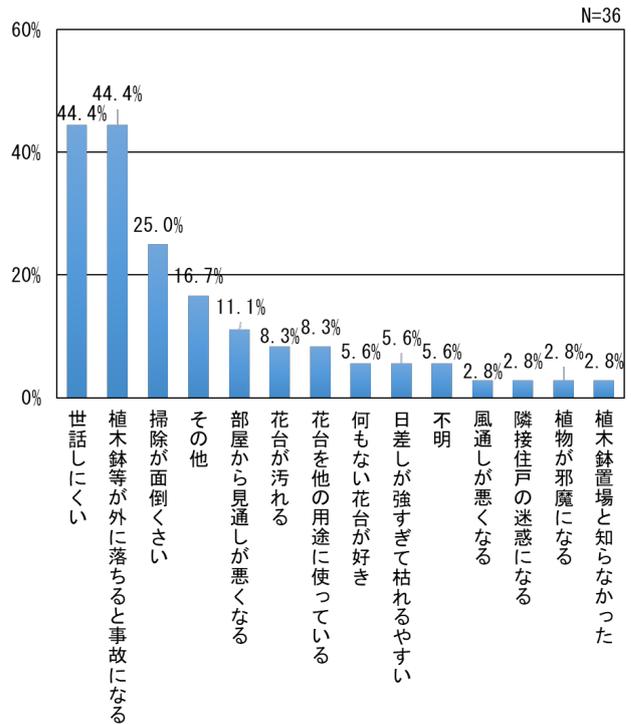


図7 花台で植物を栽培しない理由(複数回答可)

1) 花台で植物栽培をする理由

花台で植物を栽培する理由を尋ねた結果、「日当たりがいい」という回答の割合が高い(81%、図5)。「風通しがいい」「世話しやすい」「部屋から植物がよく見える」「植木鉢置場だから」という回答は30%以上あり、植物の生育条件を重視していることが分かる。一方、「日差しを遮る」「外からの目隠しになる」「外から植物がよく見える」「他の住戸が花台を使っている」「花台以外のバルコニーは狭い」という回答は10%以下であり、暑さよけ、プライバシーなどは重視していないことが分かる。また、花台だけで栽培する人のうち、「花台があるから」という回答は49%と最も高かった(図6)。

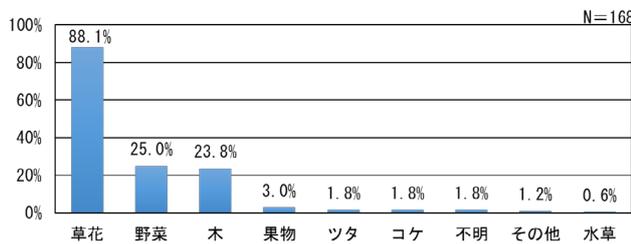


図8 花台で栽培されている植物の種類(複数回答可)



写真2 花台で栽培されている多様な植物

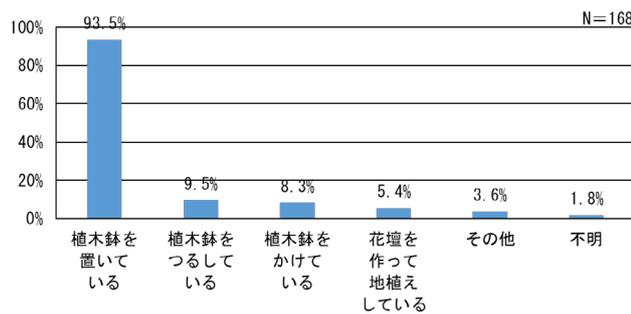


図9 花台での植物栽培の形式(複数回答可)



写真3 花台で植木鉢をかけている例(左)とつるしている例(右)

2) 花台で植物栽培をしない理由

約2割の回答者は花台で植物を栽培していない。その理由を尋ねた結果、「世話しにくい」「植木鉢等が外に落ちると事故になる」の回答は40%以上で、「花台は台風時や掃除の時に植木鉢を移動することが大変で、水はけが悪いので、世話しにくい」という意見もあった(図7)。花台の移動性や安全性を高めるために、花台の高さや奥行きを検討することや落下防止策を考える必要があると言える。

3) 花台での植物栽培の詳細

花台で植物を栽培している回答者に対して“何を栽培

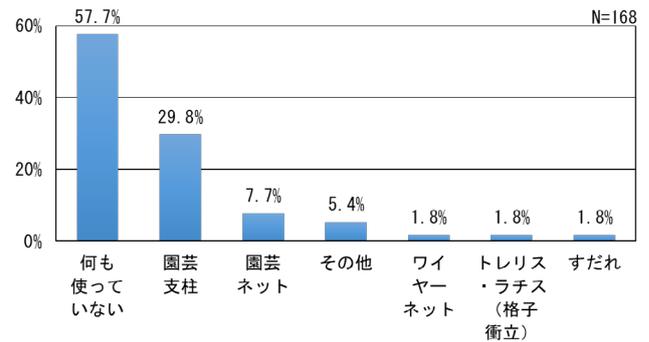


図10 花台での植物栽培で用いている材料(複数回答可)



写真4 花台で園芸支柱(左)とラチス(右)を使っている例

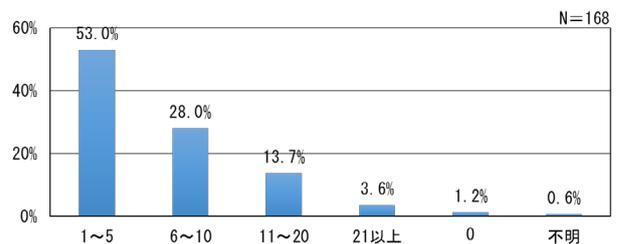


図11 花台に置かれている植木鉢の個数



写真5 花台に設置されている植木鉢

していますか」と尋ねた結果、「草花」の回答が 80% みられた (図 8)。「野菜」は 25% で、「草花」と比べると低く、「果物」はさらに低い。割合は低いものの、「ツタ」、「コケ」、「水草」の回答もあった (写真 2)。

次に、「花台でどのように栽培していますか」と尋ねた結果、「植木鉢を置いている」が 90% 以上で、「植木鉢をつるしている」「植木鉢をかけている」が 1 割程度あり、「花壇を作って地植えしている」もみられた (図 9・写真 3)。さらに、「花台で何をを使って栽培していますか」と尋ねた結果、「何も使っていない」が 60% 近く、「園芸支柱」が 30% 程度である (図 10)。割合は低いが、園芸ネットなどもある。トレリス・ラチスは非常に低く、装飾的ではない。ただし、トレリス・ラチスは背の高いものがあり、落下の危険性を考慮している可能性がある (写真 4)。

“花台に植木鉢はいくつがありますか”と尋ねた結果、「1~5」個の割合が最も高いが、「21 個以上」もみられた (図 11)。「0」の選択は花台で地植えをしている (写真 5)。

(4) 居住階数と栽培の状況

居住階数と花台・バルコニーでの植物栽培の関係性を分析した結果、植物を栽培する割合は階数に関係なく、60% 程度でほぼ等しい (図 12)。階数が高くなるほど、花台だけで植物を栽培する割合が低くなり、バルコニーだけで植物を栽培する割合が高くなっている。また、「植木鉢等が外に落ちると事故になる」の回答者について、居住階別にみると中高層が最も高い (図 13)。

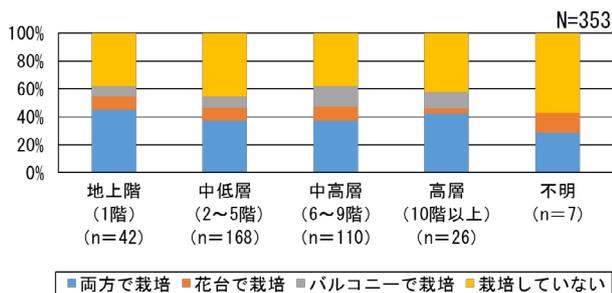


図 12 居住階数毎の植物栽培の状況

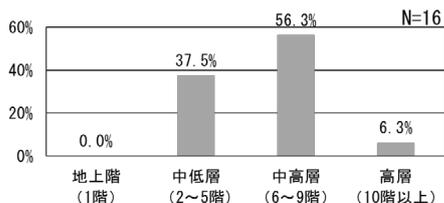


図 13 「植木鉢等が外に落ちると事故になる」から植物栽培しないと回答した居住者の居住階毎の割合

(5) 花台空間の認識と利用状況

花台の認識と利用状況を分析した結果、花台は植物を栽培する設備だと「知っている」回答者についてみると植物栽培をしている人が約 51% と多く、「知らない」回答者を見ると、栽培していない人が約 79% と多い。(図 14)。花台の用途がわかっている、図 7 の「世話しにくい」

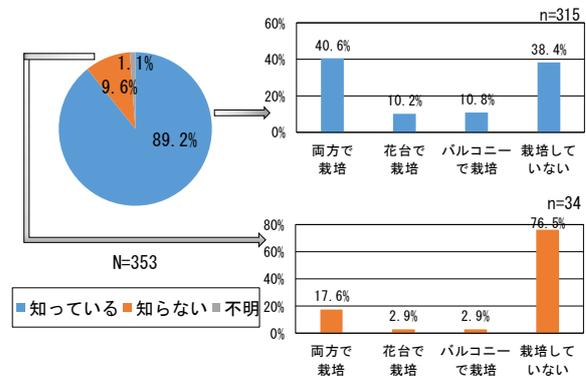


図 14 花台の認識と利用状況

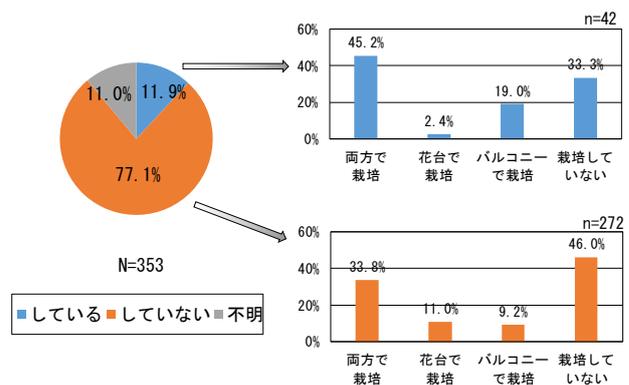


図 15 植物栽培以外の花台の利用状況

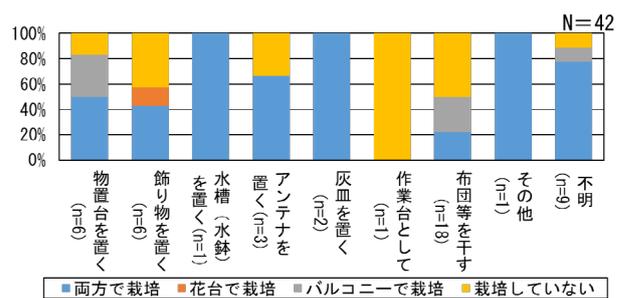


図 16 花台で植物栽培以外の利用方法 (複数回答可)



写真 6 花台で植物と飾り物が一緒に置かれている例 (左) と植物栽培と物干しの場所が分かれている例 (右)

「植木鉢などが外に落ちると事故になる」などの理由で花台を利用しない回答者は約 50%である。「知らない」では、両方無栽培の割合が高いが、花台で植物を栽培する割合は 20% (両方で栽培の割合と花台で栽培の割合の合計) 以上がある。この結果から、花台の利用法がわからなくても、花台で植物を栽培できることが分かる。

(6) 花台の植物栽培以外の利用状況

1) 植物栽培以外の花台の利用状況

植物栽培以外の花台の利用状況を分析した結果、植物栽培以外の利用を「している」回答者では、バルコニーで栽培 (19.0%) と両方無栽培 (33.3%) の割合は高い一方で花台だけで栽培は 2.4% と低いことから、花台で植物を栽培すると他の利用がしにくくなることがわかる (図 15)。

2) 植物栽培以外の花台の利用方法

植物栽培以外の花台の利用方法と利用状況を分析した結果、全体から見ると飾り物を置いている回答者 6 名中一名は植物と飾り物一緒に置いており (図 16)、植物を飾り物の背景や飾り物と組み合わせて、雰囲気づくりに役立てている。一方、「物置」と「布団等を干し」では、花台で栽培すると物干しや物置の邪魔になり、布団や洗濯物が汚れる可能性があるため、花台で栽培する割合が低くなると考えられる。以上の結果から、植物の栽培スペースと物干しのスペースは分ける必要があるといえる (写真 6)。

3. 結論

仮説 1) 「花台により、緑化率が高くなる傾向にある」については、植物栽培の割合は半分以上あり、花台で植物を栽培している人は 48% でみられた。また、回答者の 9% は花台だけで栽培すると回答しており、その理由では、「花台があるから」という回答が 48.5% と最も多い。以上の結果、花台があることで植物を栽培する回答者が全体の 4.3% 存在することから、花台には緑化率を向上させる効果があると言える。一方で、「世話しにくい」「植木鉢などが外に落ちると事故になる」等の原因で、花台に植物を栽培しないという現状もある。

仮説 2) 「花台緑化の目的のひとつは都市緑化のためである」については、花台で栽培している人は都市緑化に関心はないという結果だった。花台は住戸側に向いており、外部からは見にくくことが影響していると考えられる。都市緑化に貢献するためには、花台が外部からも見えるようにする必要があるだろう。

仮説 3) 「低層階の住戸の花台の緑化率が高い」については、階数と緑化率には関係性は見られなかった。

仮説 4) 「花台空間は緑化以外の事柄に利用されている可能性がある」については、植物栽培以外の花台の利用は 12% でみられた。その中でも「布団等を干す」の回答が最も多い。花台を物干しや物置として利用する場合、布団や洗濯物が汚れる可能性があるため、植物栽培する割合は低くなる。

以上の結果から、物が落下しにくいように配慮した上で、地上階から植物が良く見えるように花台を設計する必要性があり、世話しやすい高さや干し物などを邪魔しない位置に計画することが重要だと言える。また、植物栽培以外の花台の利用が減少するように、十分なバルコニー空間も必要だと考えられる。

4. 考察

既往研究⁹⁾からは、外からの視線を隠したり、通行人に緑を感じさせるため、バルコニーの手摺壁を日射透過壁にすると自主緑化を誘発しやすいことが示唆された。しかし、花台の場合、植物は外から見えにくく、住民は都市緑化のために花台で植物を育てるわけでないという結果から、花台は都市緑化向上のために設計されたものではなく、室内からの視点で設計された可能性が高いと考えられる。

5. 今後の課題

また、本アンケート調査は回収率が 9.1% と低く、花台に関心のある層に偏っている可能性があるため、目視調査を併せて実施する必要がある。また、年齢・居住歴・日中の在宅率との関係などの居住者特性との関係が考慮されていないため、居住者特性と花台利用の関係性について明らかにする必要がある。本研究では、花台のある市営住宅に着目したが、花台のない市営住宅の緑化率の実態や居住者意識との比較を検証する必要があると考える。本研究では花台の形状を調査していない。花台専用の排水設備については今回の調査では確認されなかった。花台には様々な形状があり、花台の形状によって、花台での植木鉢の個数や栽培意欲も異なると考えられる。異なる形状の花台の利用状況を解明することが今後の課題である。

謝辞

アンケート調査に協力していただいた大阪市営住宅の住民の方々に

深く感謝いたします。また、大阪市営住宅に関する様々な質問に丁寧に回答していただいた都市整備局住宅部管理課の方々にも心より感謝いたします。

注

注1) 2021年5月、大阪市のホームページの市営住宅一覧を参考にした。

注2) 大阪市に花台を整備した意図や目的について、メールで問い合わせた結果、「花台空間の歴史及び設計の経緯に関する文献は有りません。」という回答があった。大阪市には花台を整備した意図や目的に関する資料が存在しないため、推測に止まる。

参考文献

- 1) 生川慶一郎、柏原士郎、吉村英祐、横田隆司、坂田弘一：集合住宅の玄関前における住民の緑化行動を誘発する空間特性について、日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2 分冊、pp. 217-219、1999
- 2) 生川慶一郎、柏原士郎、吉村英祐、横田隆司、坂田弘一：建て替えによる集合住宅の空間特性の変化が自主緑化に与える影響-自主緑化を誘発する集合住宅の計画手法に関する研究-、日本建築学会計画系論文集 第552号、pp. 161-168、2002. 2
- 3) 生川慶一郎、柏原士郎、吉村英祐、横田隆司、坂田弘一：集合住宅のバルコニーにおける自主緑化の実態およびその特性についての考察-自主緑化を誘発する集合住宅の計画手法に関する研究その2-、日本建築学会計画系論文集 第556号、pp. 17-24、2003. 4
- 4) 佐野こずえ、柏原士郎、吉村英祐、横田隆司、坂田弘一、林史朗：環境共生住宅に関する居住者の意識について-環境共生住宅の計画手法に関する研究-、日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2 分冊、pp. 353-354、1999
- 5) 佐野こずえ、柏原士郎、吉村英祐、横田隆司、坂田弘一、林史朗：公共賃貸環境共生住宅の居住者意識から見た環境共生手法の在り方-環境共生型集合住宅の計画手法に関する研究-、日本建築学会計画系論文集 第537号、pp. 157-164、2000. 11
- 6) 岸川謙介、高田光雄、Oussouby SACKO、豊田裕崇：NEXT21 居住者と周辺住民の住環境に対する評価-実験集合住宅NEXT21における建築物緑化に関する調査研究-その1、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp. 347-348、1996. 3
- 7) Oussouby SACKO、高田光雄、上垣文美、中田論、小俣喜彦：実験集合住宅NEXT21における建築物緑化に関する研究-居住者及び周辺住民の印象から-、日本建築学会近畿支部研究報告集(計画系)、pp. 541-544、1996. 7
- 8) 上田規弘、横田隆司、飯田匡、伊丹康二：環境共生型集合住宅団地におけるベランダ緑化状況の経年変化に関する研究-大阪府営河内長野木戸住宅を対象に-、日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2 分冊、pp. 111-112、2009. 8

9) 中谷幸世、生川慶一郎、柏原士郎：集合住宅のバルコニーおよび共用部分の自主緑化の実態について、日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2 分冊、pp. 439-440、2006. 7

10) 大浦寛登、柏原士郎、吉村英祐、横田隆司、坂田弘一、佐野こずえ、生川慶一郎：集合住宅における住民の緑化行動を誘発する空間特性に関する研究、日本建築学会近畿支部研究報告集(計画系)、pp. 317-320、2000. 5